

平成25年度鹿児島学習定着度調査結果（概要）

1 調査の概要

(1) 調査の趣旨・目的

学習指導要領において身に付けることが求められている基礎的・基本的な知識・技能や思考力・判断力・表現力等に関する学力状況を把握するとともに、児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況を把握する。

また、各学校に全県的な傾向との比較・分析などを通じて、自校の課題を明確にさせ、問題解決的な学習活動を取り入れるなど教員の指導法改善を図るとともに、児童生徒の学力向上を図る。

(2) 調査の内容

【学力調査】

主として「基礎・基本」に関する内容と主として「思考・表現」に関する内容で出題し、当該学年の12月終了程度までの学習範囲を調査する。

【学習状況調査】

児童生徒の学習に関する意識や学び方などの学習状況について、質問紙により調査する。

(3) 調査の実施日

【学力調査】 平成26年1月15日（水）・16日（木）

【学習状況調査】 平成26年1月14日（火）～17日（金） ※ 児童・生徒質問紙

(4) 対象学年、対象教科等

小学校第5学年（国語，社会，算数，理科，児童質問紙）

中学校第1・2学年（国語，社会，数学，理科，英語，生徒質問紙）

2 結果の概要

鹿児島学習定着度調査では、「基礎・基本」、「思考・表現」、「全体」の3つに分けて結果を集計し、通過率を示している。

○ 「基礎・基本」の問題に関しては、平均通過率7割を超えたものが、14調査中9調査であり、小学校においては、概ね定着している。「思考・表現」の問題に関しては、5割を超えたものが8調査であり、課題のある教科・学年もある。

○ 「思考・表現」の問題に関しては、特に、算数・数学、理科において、課題が大きく、授業を通じて、思考力・表現力を高める工夫・改善が必要である。

3 各教科の平均通過率等

		基礎・基本	思考・表現	全体
国語	小5	74.6	51.9	67.3
	中1	71.0	63.7	67.9
	中2	66.4	57.6	62.6

○ 小5の「話すこと・聞くこと」や中1の「読むこと」、中2の「書くこと」の領域に課題がある。

○ 具体的な言語活動の中で、目的に応じて話し合ったり、根拠を明確に伝え合ったりさせる必要がある。

		基礎・基本	思考・表現	全体
社会	小5	73.2	66.3	70.9
	中1	61.2	45.2	56.1
	中2	69.3	50.2	63.7

○ 中1・中2の社会的事象についての説明や理由、事象間の関連等を記述する問題に課題がある。

○ 調べたことや考えたことを発表したり記述する活動を充実させながら、事実に基づく知識も定着させていく必要がある。

		基礎・基本	思考・表現	全体
算数	小5	72.1	40.9	64.0
	中1	77.8	46.8	68.5
	中2	73.1	28.9	59.8

○ 「思考・表現」に関する問題では、小5の「量と測定」、中1、中2の「数と式」の領域に、課題がある。

○ 判断の根拠を記述・説明したり、考えたことを筋道立てて記述・説明したりする活動の充実を図る必要がある。

		基礎・基本	思考・表現	全体
理科	小5	79.3	55.2	73.3
	中1	67.5	35.9	57.2
	中2	68.1	49.2	62.1

○ 小5は記述して説明することが十分でなく、中1、中2では事象同士を関連付けて理解することに課題がある。

○ 事象の仕組みをモデルで予想、説明する活動を工夫し、科学的な思考力の発揮による深い理解を図る必要がある。

		基礎・基本	思考・表現	全体
英語	小5	—	—	—
	中1	78.8	76.7	77.8
	中2	74.6	67.7	71.7

○ 正しい語順や語法を用いて文を構成し、文と文のつながりなどを注意して「書くこと」に課題がある。

○ 考えや気持ちを表現するために、内容的にまとまりのある英文を作成する言語活動の充実を図る必要がある。

4 調査結果の活用（今後の対応）

今後、本調査の更に詳細な分析を行い、その結果を全国学力・学習状況調査の結果分析とあわせて、県下全体で課題を共有する。また、これらの調査と結果分析をPDCAサイクルに位置づけ、その改善に向けた対応に着実に取り組むとともに、今後の学力向上のための施策の検討・実施に生かす。